



京阪電車「湖都古都きっぷ」で巡る紅葉スポット

フォト・ウォーク33会 11月例会のご案内

秋も深まり、紅葉の季節がやって来ました。フォト・ウォーク33会の初企画は京阪電車を利用して大津市南部地域の紅葉スポットを巡るコースです。三井寺や坂本の日吉大社、西教寺など錦繡に彩られた古刹を訪ね、近江の歴史・文化に思いを馳せる一日をご一緒に過ごしませんか？午前中はボランティアガイドさんの案内で、午後の坂本では、滋賀院門蹟と西教寺で各寺院の方に解説をお願いしています。

記



- 実施日：平成24年11月26日(月) 「雨天決行」

 - * 当日午前7時、大津市の気象情報で暴風・大雨警報が出ている場合は中止とします。
 - 不明な場合はウォーク担当(安田)か各クラス責任者(山形)にご確認下さい。
 - (連絡先 安田 077-536-5690/090-6179-7715、クラス責任者 山形 077-565-0562/090-1022-6859)
- 申込締切：11月12日(月) 準備の都合がございますので、お申し込みはなるべくお早めに。
- 集合場所・時間：京阪浜大津駅改札を出て右の広場に午前9時30分集合。参加受付け後、ストレッチ。
- 参加費：1,600円(クラス役員または責任者が当日集金の上、会計担当役員(横田・伊部)にお渡し下さい。)お手数ですが釣銭が要らないよう各自ご準備をお願いします。

 - * 申込締切以降の取消は必要経費に充当する為、一定の金額をキャンセル料としてお支払い頂きます。
 - * 尚、別途京阪電車の最寄り駅で「湖都古都きっぷ」をお買い求め下さい。駅員さんから購入のこと。

京阪電車 湖都古都きっぷ(一日乗車券500円) <http://www.keihan-o2.com/ticket/kotokoto.html>
 (注)坂本・堅田方面の方は乗車区間をバラで買われる方が安い場合がありますのでご注意ください。
- 歩行距離：寺社内拝観を含め10kmまで。三井寺の観音堂に至る石段以外はほぼ平坦地を歩きます。
- 行程：浜大津駅・(徒歩)・琵琶湖疏水・長等神社・三井寺観音堂・三井寺・(徒歩)・

09:45	09:55(説明)	10:05	10:10	11:25
弘文天皇陵・(徒歩)・皇子が丘公園(昼食・散策)・公園入口集合・皇子山駅＝				
11:40	11:45	11:55	12:50	12:57
(京阪電車)＝坂本駅・(徒歩)・滋賀院門蹟(解説)・(徒歩)・日吉大社(東本宮				
	13:08	13:15	14:00	14:15
絵皮葺修復工事見学)・(徒歩)・西教寺(解説)・(徒歩)・坂本駅 解散				
	15:00	15:20	16:20	16:45
- 持ち物：弁当、飲み物、敷物、帽子、雨具、名札(在学中の物)など。



8. 見どころ :

● **三井寺** <http://www.shiga-miidera.or.jp/>

天台宗の総本山。正式名称を長等山園城寺(ながらさんおんじょうじ)といいます。近江八景の一つ「三井の晩鐘」でも知られています。667年に天智天皇により飛鳥から近江に都が移され、近江大津京が開かれました。672年、前年の天智天皇の永眠後、大友皇子(天智天皇の子:弘文天皇)と大海人皇子(天智天皇の弟:天武天皇)が皇位継承をめぐる争い、壬申の乱が勃発。壬申の乱に敗れた大友皇子の皇子の大友与多王は父の霊を弔うために「田園城邑(じょうゆう)」を寄進して寺を創建し、天武天皇から「園城」という勅額を賜ったことが園城寺の始まりとされています。勝利をおさめた大海人皇子は再び飛鳥に遷都し、近江大津京はわずか5年で廃都となりました。三井寺と呼ばれるようになったのは、天智・天武・持統天皇の三帝の誕生の際に御産湯に用いられたという霊泉があり「御井の寺」と呼ばれていたものを後に智証大師円珍が当時の叡義・三部灌頂の法儀に用いたことに由来します。

● **滋賀院門跡** <http://www.biwako-visitors.jp/search/spot.php?id=434>

もともと京都の北白川にあった法勝寺(ほうしょうじ)を、江戸時代初期に現在地に移し、のち後水尾(ごみずのお)上皇から滋賀院の号を賜りました。江戸時代末まで天台座主(ざす)となった皇族代々の居所であったため高い格式を誇り、滋賀院門跡と呼ばれます。坂本の町には、穴太(あのを)積みの石垣が見事な里坊が数多く残っていますが、中でも滋賀院門跡はひときわ背の高い石垣と白壁に囲まれて、延暦寺の本坊らしい堂々とした外構えを見せています。約2万平方メートルという広大な境内は、内仏殿・宸殿・書院・庫裏(くり)・土蔵などが立ち並んでいます。書院には、江戸時代初めの狩野派の障壁画(しょうへきが)がたくさん見られ、豪華な雰囲気には溢れています。また、名庭として知られる庭園は、宸殿の縁側から鑑賞することができます。(解説付き)

● **日吉大社** <http://hiyoshitaisha.jp/about/>

全国各地にある3,800余りの「山王(さんのう)さん」の総本宮。「山王七社」「山王二十一社」ともいわれ、他に例を見ないほど摂社・末社が多くあります。創祀は古事記に記されるほど古く、地主神である大山咋神(おおやまくいのかみ)とその妻、鴨玉依姫神(かもたまよりひめのかみ)を祀ったのが始まりです。その後、延暦寺の発展とともに整備されました。東本宮は、境内西にそびえる神体山の八王子山(378m)に鎮座する大山咋神を祀ったものです。西本宮は大津京遷都にあたって奈良県の三輪山より大己貴神(おおなむちのかみ)を勧請したもので、西本宮のほか、宇佐宮、加賀の一宮である白山比咩神社から勧請した白山宮などがあります。東本宮・西本宮ともに本殿は日吉造(ひえづくり)といわれる特殊な建築で、国宝です。このほか、石の橋で重要文化財に指定されたのは珍しいといわれる日吉三橋(ひよしさんきょう)、猿の彫刻のある朱色の西本宮楼門、山王の「山」という文字を表した山王鳥居など、重要文化財が多くあります。社殿は、大半が室町時代後期から江戸時代初期の建立です。

● **西教寺** <http://www.saikyoji.org/ryakuengi.html>

全国に450以上の末寺を持つ天台真盛宗(てんだいしんせいしゅう)の総本山。寺伝では、聖徳太子(574-622)が創建し、のちに天智天皇(626-671)から西教寺の勅願(ちよくがん)を賜わり、平安時代に延暦寺中興の祖良源(りょうげん)(913-985)が、続いて横川の源信(げんしん)(942-1017)が庵を結んで修行道場としたと伝えられています。その後、長らく荒廃していましたが、室町時代末期に延暦寺で20年間もの修行を積んだ真盛(1443-93)が入寺して再興しました。荘厳な風格を誇る本堂、伏見城の遺構を移したという客殿、その内部の狩野派による人物・花鳥襖絵(ふすまゑ)など、多くの見所があります。また、戦国時代、織田信長(1534-82)による延暦寺焼き討ちで焼失したとき、明智光秀(1528-82)が総門・庫裏などを寄進した関係で、境内には、光秀一族の墓もあります。

*紅葉の時期に明智光秀の特別展(仮称)が開催されます。襖絵、庭園など一見の価値あり。解説付きで拝観します。